



静岡県内企業の インターンシップ拡大を 実現した連携と協働

静岡大学 学生支援センター
キャリアサポート部門
宇賀田栄次

1. 静岡県内企業のインターンシップ実施状況
2. 「連携」と「協働」について
3. インターンシップ拡大を実現した連携と協働
4. 結び: 持続的なインターンシップ推進への大学の役割

1. 静岡県内企業のインターンシップ実施状況

インターンシップ実施企業の拡大

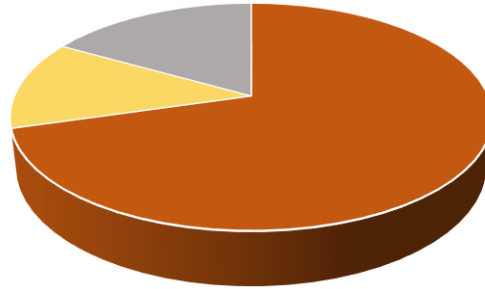
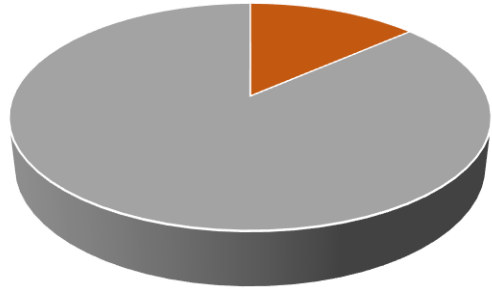
新卒採用を行った企業
を対象とした実施率

2011年3月調査
(n=308)

2019年12月調査
(n=476)

70.5%
(検討中を含めると83.2%)

13.6%



参考: 2012年3月調査 n=496社

過去にインターンシップ
実施無し 73.2%

これまで
実施有り
26.8%

- 指導役の負担が大きい
- 日程やプログラムの負担
- 実施するメリットない



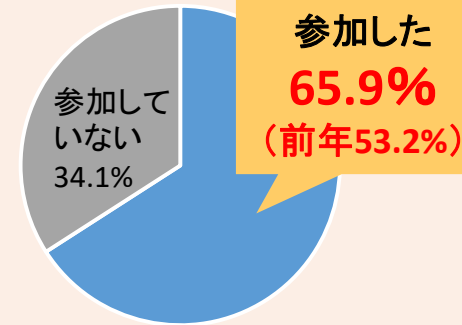
当年実施企業の63.6%が
「効果がなかった」と回答

2011年: 満井就職支援奨学財団・静岡経済研究所調査
2012年: 新卒者の就職・雇用ミスマッチ解消に向けた連絡会調査
2019年・2020年: しずおか産学就職連絡会調査

2020年4月調査

静岡県内企業に勤務する入社3年
以内の新卒大卒・大学院卒者

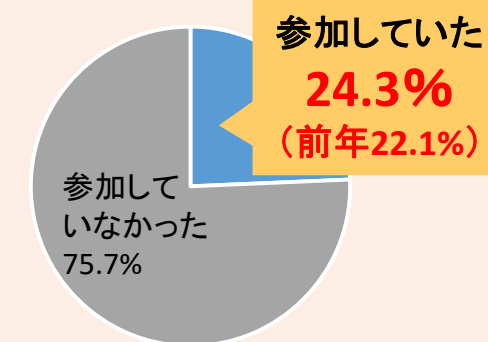
■ インターンシップ参加状況 (n=229)



「参加した」学生の
入社年別内訳

2020年卒	72.6%
2019年卒	60.0%
2018年卒	60.5%

■ 入社した会社のインターンシップ
参加の有無 (n=222)

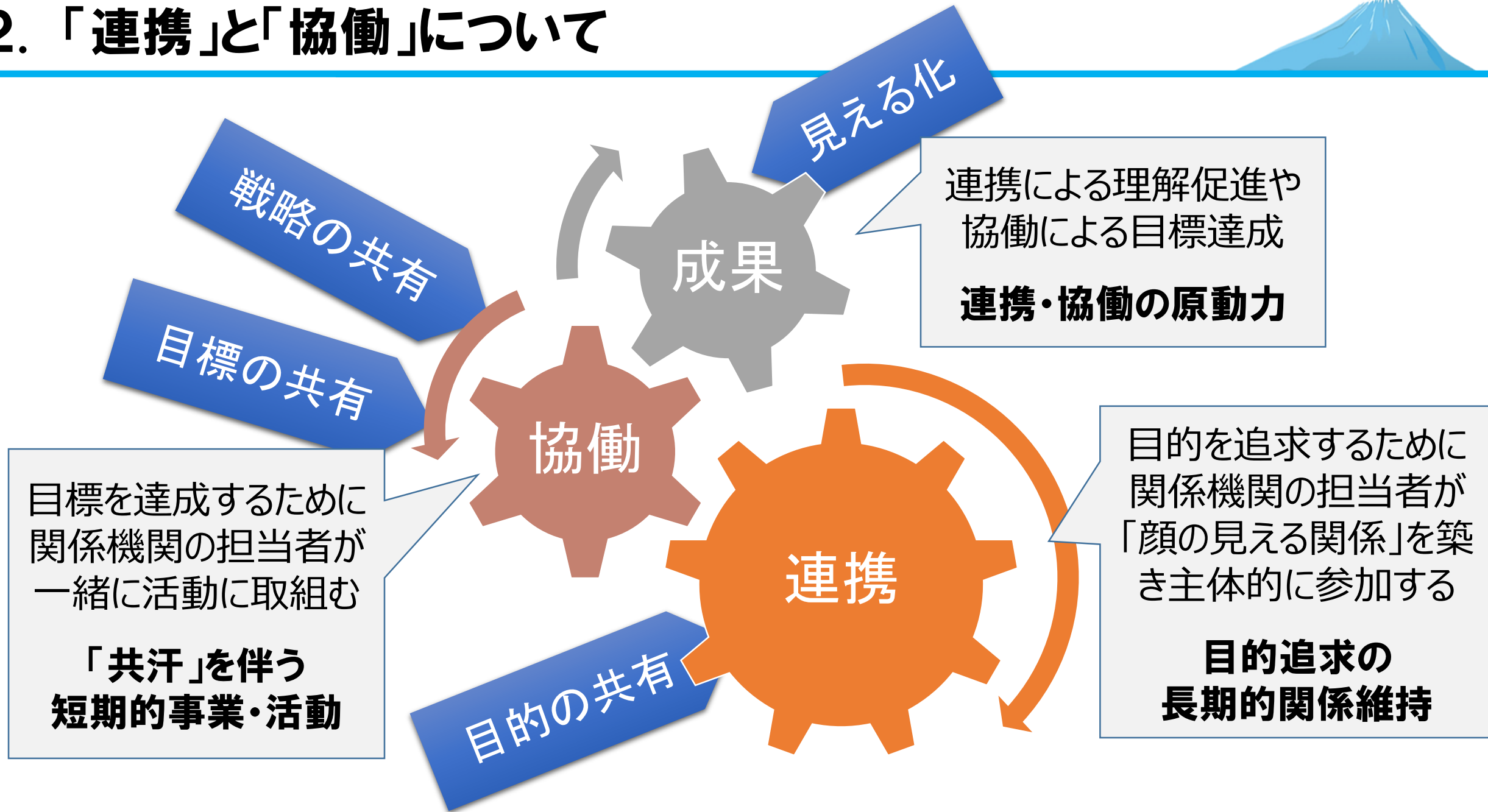


「参加していた」学生の
入社年別内訳

2020年卒	35.0%
2019年卒	10.4%
2018年卒	23.8%

採用活動への効果

2. 「連携」と「協働」について



3. インターンシップ拡大を実現した連携と協働①



2012年度～2019年度
文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」
「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)」

目標 戦略

見える化

2011年12月
静岡県内の経済5団体(静岡県経営者協会、静岡県商工会議所連合会、静岡県商工会連合会、静岡県中小企業団体中央会、静岡県中小企業家同友会)と大学ネットワーク静岡(現:ふじのくに地域・大学コンソーシアム)が、「新卒者の雇用のミスマッチ解消」を目的に、**関係機関**
担当者の「顔の見える関係」を構築・維持できる連絡会をスタート。翌年度から自治体や労働局も参加(年4回程度の会議十年3回調査)

見える化

2014年3月設置

ふじのくに地域・大学コンソーシアム

県内高等教育機関の教育・研究力向上に向けた“インターンシップ部会”的役割

目的

2014年9月
(公社)ふじのくに地域・大学コンソーシアム
「インターンシップ推進委員会」を設置

目的

雇用のミスマッチ解消に向けた“インターンシップ部会”的役割

しずおか産学就職連絡会

沼津工業高等専門学校

静岡文化芸術大学

静岡英和学院大学

静岡理工科大学

静岡県立大学

常葉大学

東海大学
短期大学部

静岡商工会議所

静岡県中小企業家同友会

静岡大学
(事務局)

※2020年度から「インターンシップ推進委員会」事務局は常葉大学へ

3. インターンシップ拡大を実現した連携と協働②



「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」 インターンシップ推進に向けた戦略全体図

県内就職率向上に向けたインターンシップ推進の戦略立て

■本事業における就職支援グループのテーマ

事業協働機関等との連携による県内企業・地域と学生との接点拡大

インターンシップの二面性(教育・就活準備)の融合による推進

大学間連携によるインターンシップの教育プログラム化

■本事業におけるインターンシップ推進の戦略立て

目標 県内就職率向上と
インターンシップ参加学生拡大

課題 → 方針 → 目的 → 方法 → 期待成果

- 県内企業の採用状況悪化
- 就職・採用における価値観のギャップ

インターンシップが
県内企業の人材
確保につながる

次世代育成や新産業創出への
産学連携共育推進

次世代と価値観を共有できる
雇用環境の整備・改善

受入事業所の拡大	県内事業所の雇用確保・定着促進
受入情報の集約・マッチング	県内各自治体の総合戦略プランの実現
受入体制整備・マニュアル作成	大学の教育改革
低学年からの参加拡大	
教育プログラムとして開発	

COC+によるインターンシップ参加学生数の増加

2014年度 319人 → 2019年度 995人 (目標達成率153%)

大学から産業界へ発信した
インターンシップ推進の
目的と戦略

インターンシップの二面性(教育/
就活準備)の融合による推進

次世代育成や新産業創出への
産学連携共育推進

次世代と価値観を共有できる
雇用環境の整備・改善

3. インターンシップ拡大を実現した連携と協働③

産学での「インターンシップ専門人材養成研修会」

企業と大学,それぞれの立場から教育的効果を考える

【平成30年度開催プログラム】

- ①講演1「学生満足と教育的効果の高いインターンシップ」
講師：静岡大学 宇賀田栄次 氏
- ②講演2「インターンシップ受入側におけるファシリテート力
～学生の主体性を高める指導力で満足度UP～」
講師：特定非営利活動法人ESUNE
代表理事 天野浩史 氏
- ③ワークショップ「学生、企業の満足度を高める
“教育的効果の高い”インターンシップ」
進行：静岡大学 川合智之 氏



教育的効果
||
学生の成長実感
||
企業の魅力

協働

課題の自分ごと化
成果の還元・継続

【令和元年度開催プログラム】

- ①講演1「インターンシップの現状と課題」
講師：静岡大学 宇賀田栄次 氏
- ②講演2「学生から見た『成長できる』とは」
講師：学生団体NoKin. 代表 土屋尚輝 氏
(静岡大学工学部4年)
- ③意見交換会

Problem

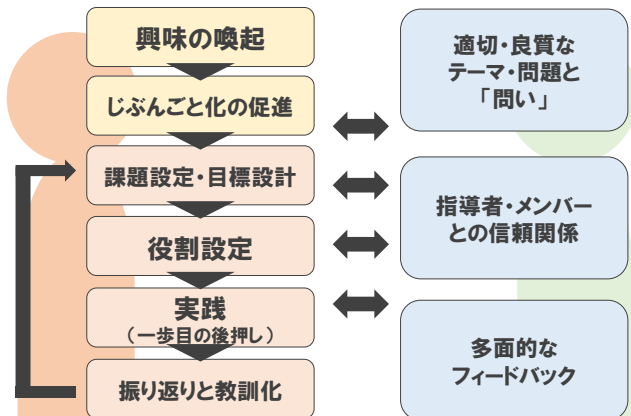
“成長”の定義とは？

貴社のインターンを通じて
学生はどんな成長を遂げられますか？

NoKin.

土屋尚輝氏資料より

主体性を引き出すコーディネート仕組み



天野浩史氏資料より

例: 参加企業担当者の声

- ・インターンも単なる職場体験で終わっている側面が強かったので、プログラムの組み方、動機、目的について考えることができました。
- ・インターンシップについて自社で取組みができる案がありました。同時に従業員教育についても良いヒントがありました。

4. 結び: 持続的なインターンシップ推進への大学の役割



地域連携プラットフォームを牽引し
高校での職場体験を拡大

キャリア教育
探究学習

評価と分析による
成果の可視化

インターンシップの再定義

学生の成長と
企業の魅力化

人材育成への効果を実証し
地域内企業と学生をリード

エンゲージメント
働きがい
SDGs

